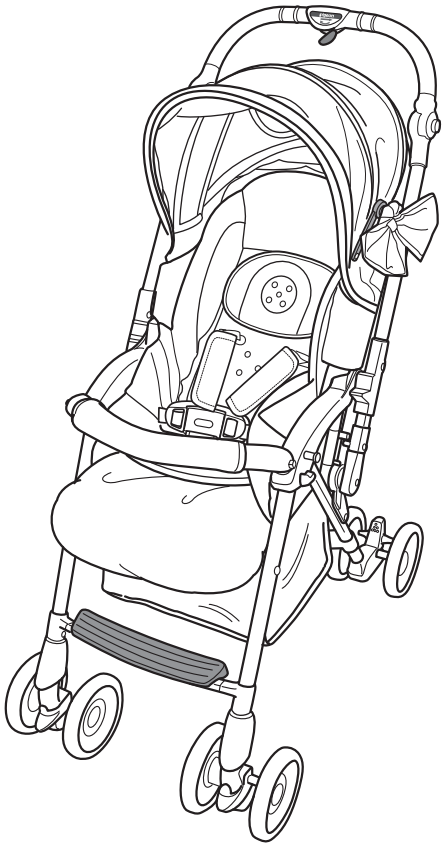
pigeon

取扱説明書 保証書付き

13.02(1)

ピジョン Mahalo マハロ

A形ベビーカー



※イラストと実際の商品は、形状など異なる場合があります。

もくじ

ご使用の前に 2
付属品 3
ベビーカーを開く前に 3
安全にお使いいただくために 4

1 各部の名称
各部の名称 8

2 日常での使い方
ベビーカーの開き方 10
幌の取り付け方 11
ストッパーの使い方（後輪のみ） 12
キャスターの使い方 13
リクライニングの使い方 14
シートベルトの使い方 15
シートベルト位置と長さの調整の仕方 16
ハグットシートの使い方 18
ハンドル切り替えの使い方 21
ハンドル角度の変え方 22
フロントガードの使い方 22
足のせバーの使い方 24
ベビーカーの折りたたみ方 25
リボンの使い方 26

3 お手入れのための取り外し・取り付け
シートの取り外し方、取り付け方 27
カゴの使い方、取り外し方、取り付け方 29
股ベルトの取り外し方、取り付け方 30
座クッションの取り付け方、取り外し方 31
肩ベルト・腰ベルトの取り付け方、取り外し方 32

4 日常の点検とお手入れ
保管のしかた 33
日常点検について 33
注油 34
清掃 34

5 その他
廃棄方法について 36
アフターサービス 36
SG マーク被害者救済制度 37
保証について（保証書） 38
お問い合わせ先 ..... 裏表紙

- ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
- 本書は、お読みになった後、大切に保管してください。
- 本品を他のお客様にお譲りになる際は、必ず本書も合わせてお渡しください。

安全基準A形
（1ヵ月～36ヵ月まで）

ご使用の前に

この製品は、一般家庭でお子様を乗せて、外気浴、買い物などに使用するための一人乗りベビーカー(乳母車)です。

対象年齢

● 対象年齢：生後1ヵ月以上36ヵ月以内

※お子様の発育により個人差があります。お子様の体重の目安は15kg以下です。
※お子様を寝かせた姿勢で、ご使用いただける月齢の目安は12ヵ月までです。
　お子様の頭がヘッドレストに当たる場合はリクライニングを一番倒した状態で使用しないでください。

望ましい連続使用時間

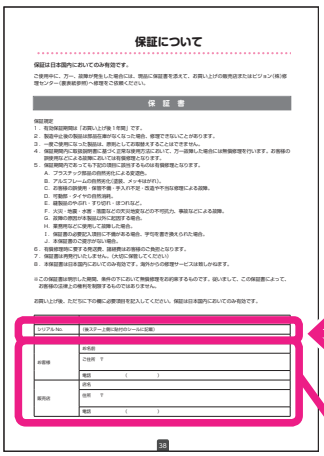
● 寝かせた姿勢: 2時間以内　　**● 座らせた姿勢: 1時間以内**

※お子様が一人でお座りができるまでは、寝かせた状態でご使用ください。

保証書にご記入ください

購入後、本書巻末の「保証書」に次の項目をご記入ください。

● 製品のカラー
● シリアルNo（後ステー上部に貼付のシールに記載）
● お客様のお名前・ご住所・電話番号
● お買い求めになった販売店名
● 購入年月日（※お買い上げ時のレシート添付でも有効）


保証について

保証は日本国内においてのみ有効です。

ご使用中に、万一、故障が発生した場合には、商品に保証書を添えて、お買い上げの販売店またはビジョン(株)修理センター(裏表紙参照)へ修理をご依頼ください。

保証書

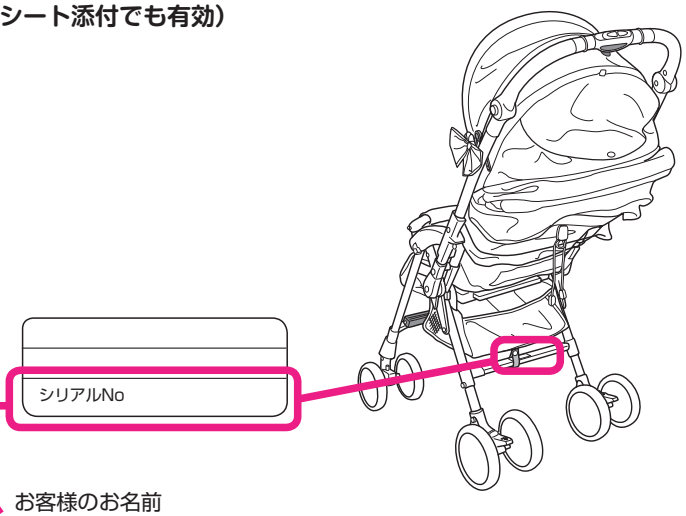
保証規定

1. 有効保証期間は「お買い上げ後1年間」です。
2. 製造中止後の製品は部品在庫がなくなった場合、修理できないことがあります。
3. 一般で使用になった製品は、原則として返品することはできません。
4. 保証期間内に取扱説明書に基づく正常な使用方法において、万一故障した場合には無償修理を行います。お買様の誤使用などによる故障においては有償修理となります。
5. 保証期間内であっても下記の場合に該当するものは有償修理となります。
   A. プラスチック部品の自然劣化による変色。
   B. アルミフレームの自然劣化(腐蝕、メッキはがれ)。
   C. お客様の誤使用・保管不備・手入れ不足・改造や不当な修理による故障。
   D. 付着物・タイヤの自然摩耗。
   E. 縫製糸のやぶれ・すり切れ・ほつれなど。
   F. 火災・地震・水害・落雷などの不可抗力な外力・事故などによる故障。
   G. 故障の原因が本製品以外に起因する場合。
   H. 業務用などに使用して故障した場合。
   I. 保証書の必要記入項目に不備がある場合、字句を書き換えられた場合。
   J. 本保証書のご提示がない場合。
6. 有償修理時に要する発送費、諸経費はお客様のご負担となります。
7. 保証書は再発行いたしません。(大切に保管してください。)
8. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。海外からの修理サービスは致しかねます。

※この保証書は明示した規定、条件の下において無償修理をお約束するものです。従いまして、この保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。

お買い上げ後、ただちに下の欄に必要項目を記入してください。保証は日本国内においてのみ有効です。

シリアルNo.	(後ステー上部に貼付のシールに記載)
お買様	お名前 ご住所　〒 電話　(　　)
販売店	店名 住所　〒 電話　(　　)


シリアルNo

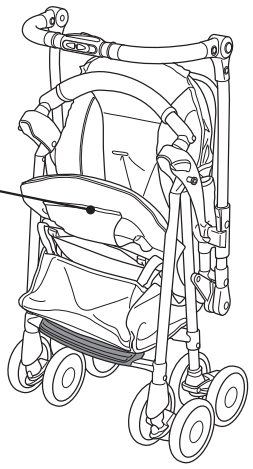
お客様のお名前
ご住所
電話番号
販売店名
購入年月日

付属品

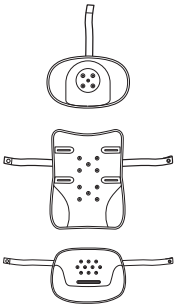
購入時の状態

● **開封後、本体と付属品がすべて揃っていることをご確認ください。**

① ベビーカー本体
② 幌
③ 取扱説明書(本書)
④ ハグットシート
(ヘッドピロー、
背面クッション、
座面クッション)
⑤ リボン×2個
⑥ 低反発クッション
(ヘッドピローに装着
してあります)



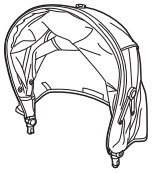
④ ハグットシート



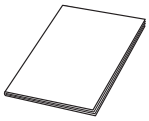
⑤ リボン×2個

⑥ 低反発クッション

② 幌



③ 取扱説明書(本書)



警告

本体および部品を入れてあるポリ袋は、窒息事故を防ぐため、廃棄してください。

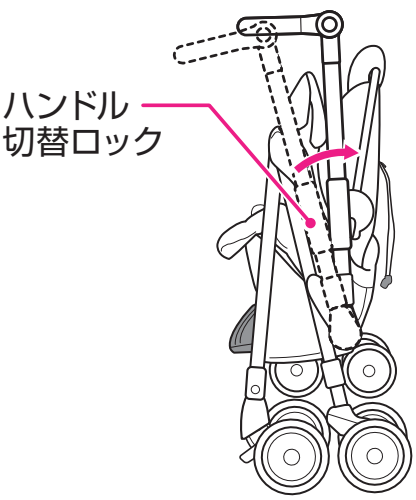
ベビーカーを開く前に

ベビーカーが折り畳まれた状態で、両側のハンドル切替ロック部を同時に持ち上げ、本体やハンドルを倒すなど力が加わると、ハンドルが背もたれ側にあるロック位置から外れてしまうことがあります。

ハンドルがロック位置から外れた状態では、ベビーカーを開くことはできません。外れている場合は、右図のようにハンドルを背もたれ側に戻していただくとハンドルロック部が正規な位置にセットされ、ベビーカーを開くことができます。

ベビーカーを開く時はハンドルを真っ直ぐに立て、リクライニングを少し倒して行ってください。

ベビーカーを開く時、開閉レバーが固くて開けない場合は、ハンドルを一度下に押し下げてから開き直してください。



安全にお使いいただくために

本書には製品を使用する上でご理解いただきたい警告及び注意事項を記載しています。
記載内容は、製品を正しく安全にお使いいただき、危害や損害を事前に防止するためのものです。
記載内容を守られなかった場合は、お子様や保護者の方、および他の人々が重大な損害を受ける恐れがあります。本書では取扱いを誤った結果、使用者、お子様に発生が予想される危害・損害の大きさや切迫度により項目を［警告］［注意］の２項目に分けて示しています。

表示	表示の内容
警告	誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。
注意	誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が発生する可能性があります。

ご使用の際にお守りいただく内容を下記の表示マークで示しています。

表示マーク	マークの意味
⚠	警告・注意を促す内容があることを示します。
✕	禁止行為を示します。

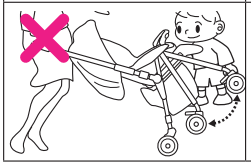
警告

「ベビーカーの転倒」によりお子様が落下したり、ベビーカーが折りたたまれてしまいお子様が挟み込まれる恐れがあります。

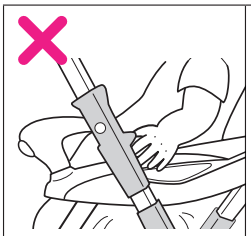
- 階段・エスカレーター・踏み切りなどの段差があるところでは使用しないでください。
- 排水溝の蓋の上の走行には十分注意してください。車輪が挟まったりして転倒などの危険があります。
- 砂場・砂浜・河原・砂利道・山道・ぬかるみ・雪道では使用しないでください。
- 風の強い時、雷の時など悪天候の時は使用しないでください。使用者も危害を受ける恐れがあります。

破損、異常が発生した場合は、そのまま使用せず、必ず修理を受けてください。

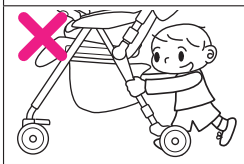
お子様を乗せたままベビーカーを持ち上げないでください。ベビーカーが破損したり、お子様が落下する恐れがあります。



ベビーカーの開閉時やリクライニング操作時、幌・カゴなどの操作時に、そばにお子様や他の人がいると、誤って指をはさむなどのケガをする恐れがあります。

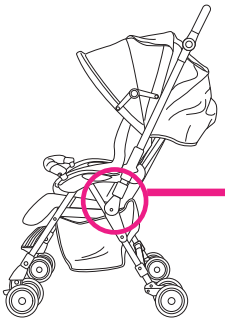


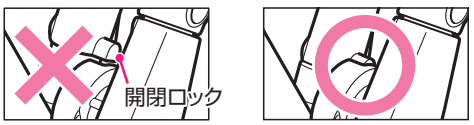
●お子様がアームレストの周囲に手を乗せていると、ハンドル切り替え時に手や指をはさむ恐れがあります。必ず手の位置を確認してください。
●着脱シートを取り外したままお子様を乗せないでください。すき間に手や足などをはさむ恐れがあります。



お子様にベビーカーを操作させないでください。手足をはさんだり、転倒するなど思わぬ事故が発生する恐れがあります。

ベビーカーを開いたら、開閉ロックが完全にかかっていることを確認してください。また、前後輪を交互に持ち上げ、車体が閉じないことを確認してください。



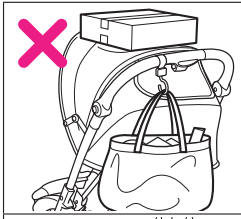


開閉ロックが
溝にはまっていない。

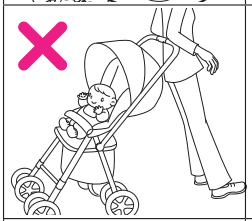
開閉ロックが
溝にはまっている。

警告

ベビーカーの転倒によりお子様が落下する恐れがあります。



カゴ以外の所に荷物を乗せたり、ハンドル部に荷物をつるしたりしないでください。
ハンドル部に荷物を下げたり、荷重をかけると後方へ転倒する恐れがあります。



ベビーカーに寄りかかったり、大人が座ったりするなど、過度の荷重をかけないでください。フレームの故障、変形の原因になります。

●二人以上のお子様を乗せないでください。
●お子様を座面以外のところに乗せないでください。
●ベビーカーはゆっくり歩いて押してください。走ると車輪が振れて転倒する恐れや、お子様に悪影響を与える恐れがあります。

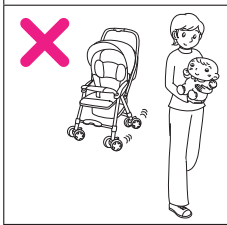
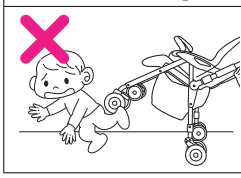
警告

お子様が落下する恐れがあります。

	●お子様は座面の正しい位置に座らせ、シートベルト（股ベルト、腰ベルト、肩ベルト）を必ず締めて使用してください。 ●バックルを締めた後、シートベルト（股ベルト、腰ベルト、肩ベルト）にゆるみが無いこと、確実に取り付けられていることを確認してから使用してください。肩ベルトが長すぎる状態で使用した場合に、首に巻きついたりする恐れがあります。
	●お子様は思わぬ動作をしますので、シートベルト（股ベルト、腰ベルト、肩ベルト）を締めていてもお子様の抜け出しや立ち上がりには目を離さず、十分注意してください。 ●お子様をベビーカーの中で立たせないでください。

警告

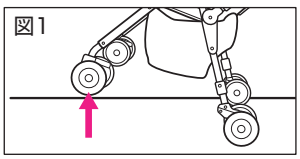
ベビーカーが動き出したり、転倒することによりお子様が落下する恐れがあります。

	ストッパーは、構造上、いかなる状態でもベビーカーを静止させることのできるものではありません。ストッパーをかけていても動き出す恐れがあります。ストッパーを過信しないでください。
	お子様や荷物を乗せたままベビーカーから離れないでください。ストッパーをかけた状態でも離れないでください。
	●お子様を乗せていない状態でも必ずストッパーはかけてください。 ●空車であっても、坂の途中や車道に近い歩道上など危険な場所に放置しないでください。
	お子様が乗り降りする際は、ベビーカーが不安定になり、転倒する恐れがありますので、しっかりと支えてください。

注意

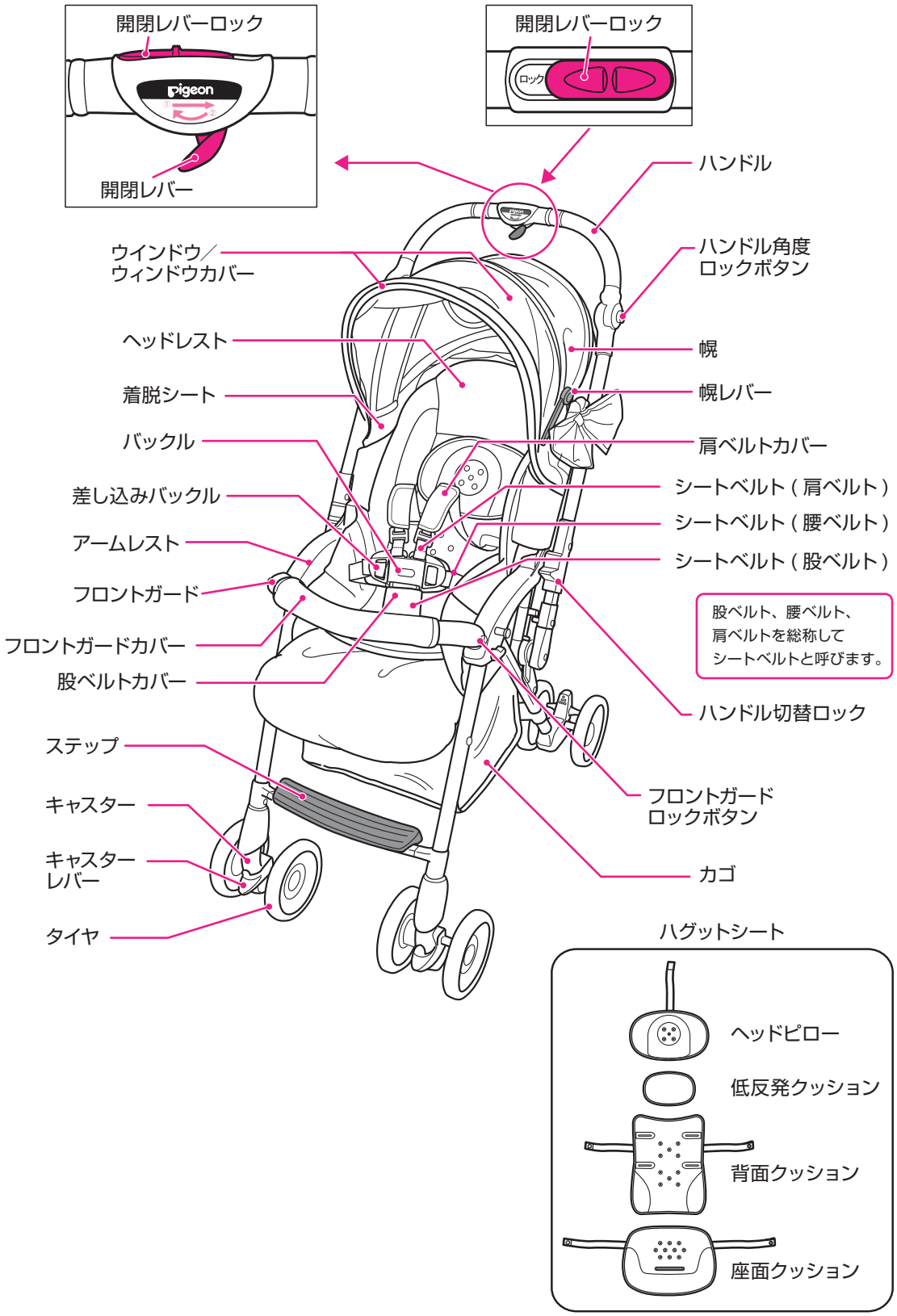
誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が発生する可能性があります。

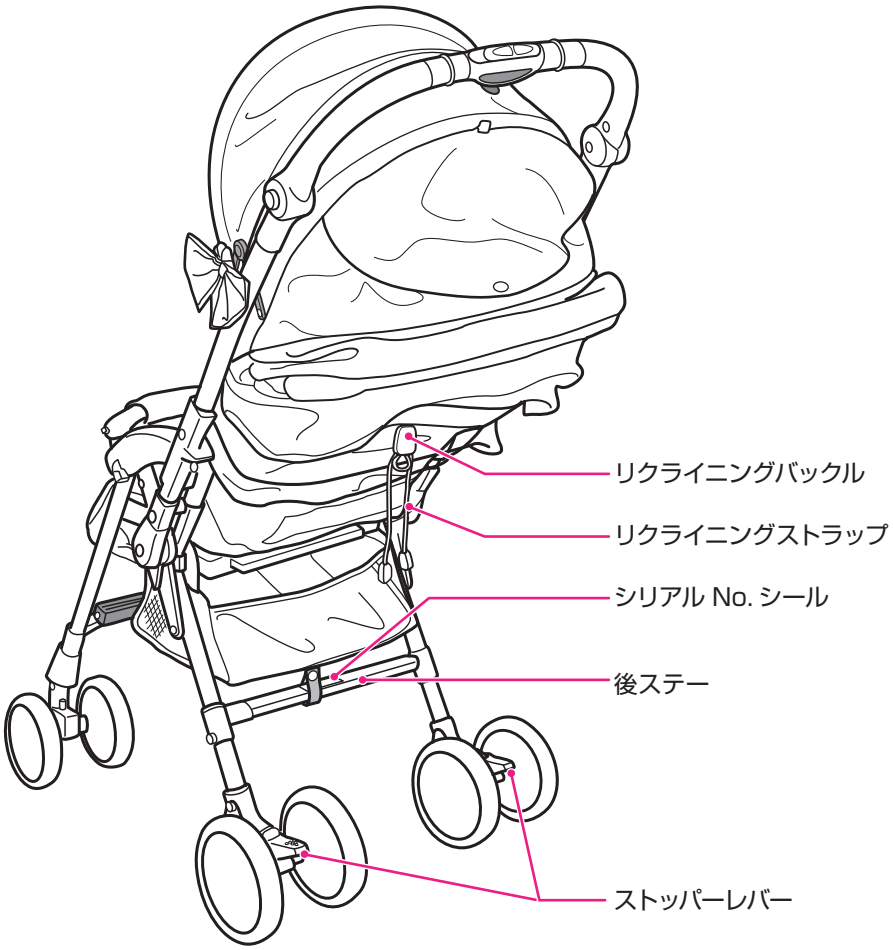
1. お子様を乗せる以外の目的で使用しないでください。目的以外の使用は破損・故障・ケガなどの恐れがあります。
2. ベビーカー本体には、お子様や荷物を乗せることを目的としたボードなどは取り付けないでください。ベビーカーの破損の原因となります。
3. お子様の足が車輪や地面につく場合は、使用しないでください。足をケガする恐れがあります。
4. お子様の頭がヘッドレストに当たる場合やシートの幅がきつくなりましたら、シートを起こした状態でお使いください。
5. フロントガードは引っ張ったり、振り回したり、必要以上に曲げたりしないでください。破損、故障の恐れがあります。
6. 使用のたびに、ネジ・リベットや車輪のゆるみ・部品の欠損が無いか、動作に問題が無いかを確認してください。
7. 前輪を持ち上げたままの状態で走行しないでください。過度の荷重がベビーカーに加わり破損、故障の恐れがあります。
8. 段差を乗り越える場合は、前輪を浮かせて段差を乗り越えてください。前輪を浮かさず無理に段差をのり越えようとすると前輪に衝撃が加わり破損・故障の原因になります。（図1参照）



9. 夏季の炎天下では路面からの熱によりベビーカー内の温度が上昇します。長時間の使用は避けてください。
10. 冬季はベビーカー内の温度も下がります。お子様が寒くないよう保温を行ってください。
11. ベビーカーを分解、改造しないでください。
12. このベビーカーは、バス・電車などの乗り物内での使用を目的として設計されていません。
    バスの中ではベビーカーを使用しないでください。
    電車の中で、お客様の責任により使用するときは、カーブや急ブレーキなどで転倒する恐れがありますので、必ずストッパーを掛けて、十分に注意してご使用ください。
    電車ご利用の際は、無理な乗り降りはしないでください。ベビーカーが自動ドアにはさまれてケガをする場合があります。また、ホームと電車の段差、隙間には十分注意して乗降してください。
13. 駅のホームには傾斜があります。ベビーカーから手を離さないでください。
14. バックルを固定しづらい場合は、お菓子や飲み物などの異物が入っている可能性があります。バックルに異常を感じた場合は、使用を中止して、修理センターへご連絡いただき、点検修理を受けてください。

各部の名称


開閉レバーロック
開閉レバー
開閉レバーロック
ロック
ハンドル
ハンドル角度
ロックボタン
ウインドウ／
ウィンドウカバー
ヘッドレスト
着脱シート
バックル
差し込みバックル
アームレスト
フロントガード
フロントガードカバー
股ベルトカバー
幌
幌レバー
肩ベルトカバー
シートベルト（肩ベルト）
シートベルト（腰ベルト）
シートベルト（股ベルト）
股ベルト、腰ベルト、
肩ベルトを総称して
シートベルトと呼びます。
ハンドル切替ロック
フロントガード
ロックボタン
カゴ
ステップ
キャスター
キャスター
レバー
タイヤ
ハグットシート
ヘッドピロー
低反発クッション
背面クッション
座面クッション



リボン

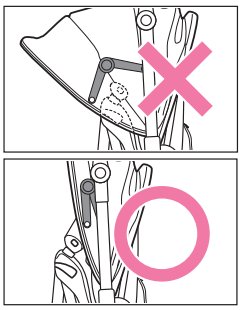
ベビーカーの開き方

警告

- ベビーカーの開閉の操作時は、そばに人（特に小さいお子様）を近づけないで行ってください。指や手を挟んだりする恐れがあります。
- ハンドルを持ち上げて、車体を浮かせた場合は開くことができません。
- 開閉レバーが固い場合は、
  ①背もたれと座面の間に股ベルトが挟まれている場合があります。股ベルトを引き出してください。
  ②ハンドルが倒れている場合は、「ハンドル角度の変え方」（P22）を参照して、ハンドル握り部をハンドルにそって真っ直ぐにしてください。

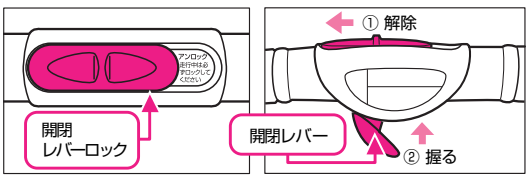
注意

ベビーカーを開く時は、アームレストに幌がかかっていないことを確認してください。



アームレストに幌がかかった状態では、ベビーカーを開くことができません。幌を手前に引いてたたんでください。

1 タイヤが接地した状態でベビーカーの後ろに立ち、
①開閉レバーロックを横にスライドさせて解除し、
②開閉レバーを握ります



※図はハンドル後方から見たものです。

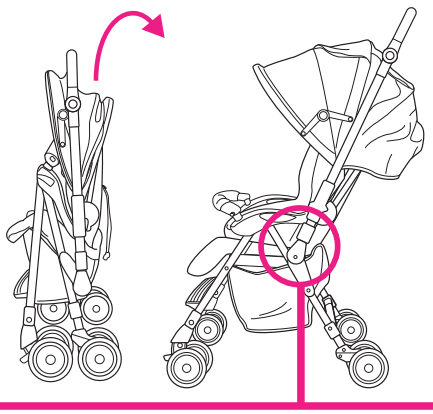
注意

- 開閉レバーロックをロック状態で開閉レバーを握らないでください。故障の原因となります。
- 走行中は、開閉レバーロックを必ずロックしてください。

2 開閉レバーを握ったまま、ハンドルグリップを持ち上げながら後ろに引く

注意

開くときに、引っかかりや挟み込みなどを感じたら、開くのをいったん止めて、荷物や玩具・シートベルトなどが引っかかっていないかを確認してください。無理に開くと故障の恐れがあります。



3 ベビーカーが完全に開いたら、開閉レバーから手を離し左右の開閉ロックが完全にかかっていることを確認する（上図参照）

- 前後輪を交互に持ち上げてベビーカーが折りたたまれないことを確認します。

4 開閉レバーロックを横にスライドさせてロック状態にする

幌の取り付け方

警告

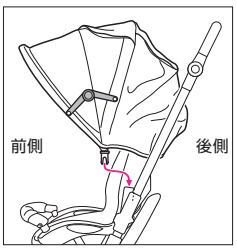
●ベビーカーをご使用になる時は、幌を必ず取り付けてご使用ください。お子様が幌ホルダーの穴に指を入れる恐れがあります。

注意

●ベビーカーの折りたたみは必ず幌を折りたたんでから行ってください。開いたまま無理に折りたたむと、幌が破損する恐れがあります。
●幌レバーの開閉時には指はさみにご注意ください。
●幌の上に荷物を置いたり、荷重を掛けたりしないでください。

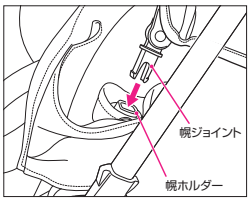
幌を取り付ける／取り外す

1 幌を開いて前後の向きを確認する



2 左右の幌ジョイントを幌ホルダーの穴に最後までしっかり差し込む

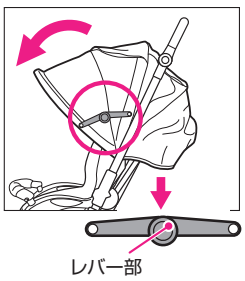
3 幌を取り外す時は、幌が閉じた状態で幌ホルダーから引き抜く

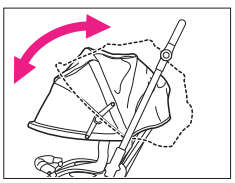


幌を開く／閉じる

開く

1 幌を前に広げ、左右の幌レバーのレバー部を押し下げる



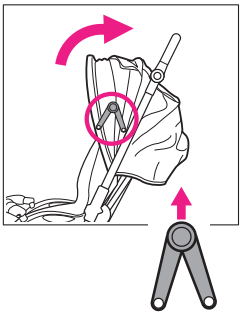


日差しの向きにより、幌を前後に動かすとお子様に日があたることを防げます。

閉じる

1 前方にある場合は幌をハンドル側に戻す

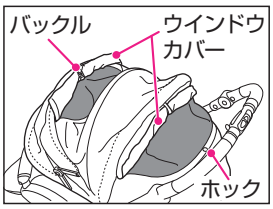
2 幌レバーのレバー部を引き上げ、幌を後側にまとめる



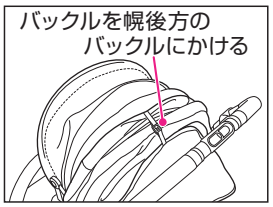
ウインドウを開く

ウインドウを開くと風通しが良くなります。また、シート上のお子様の様子を見ることができます。

開くときは、ウインドウカバーのホックを外し、ウインドウカバーをまるめてバックルをとめます。前後どちらかのウィンドウのみ開くこともできます。



閉じるときは、バックルを外してウインドウカバーを幌のホックにとめます。背もたれを起こして使用するときは、バックルを幌後方のバックルにとめると、幌を小さく収納できます。



ストッパーの使い方（後輪のみ）

警告

- ベビーカーの操作は必ず事前に平坦な路面でストッパーをロックしてから行ってください。ロックしないと、操作中にベビーカーが動き出したり、転倒することによりお子様が落下したりする恐れがあります。また、第三者に危害を加える恐れがあります。

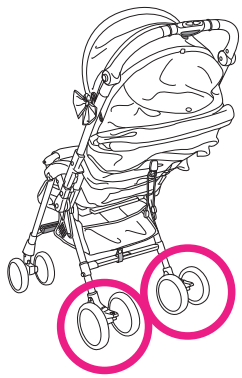
ストッパーをかける

警告

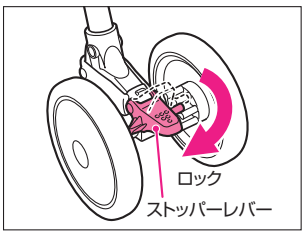
- ストッパーは、構造上、いかなる状態でもベビーカーを静止させることのできるものではありません。ストッパーをかけていても動き出す恐れがあります。
- お子様や荷物の有無に関わらず、ストッパーを過信せず、常にベビーカーから離れないでください。
- ストッパーは、両輪共にかけてください。片輪のみでは、ベビーカーが動き出したり、転倒したりする恐れがあります。

注意

ストッパーを掛けた状態で、無理に動かしたり、体重をかけて寄りかかるような行為は破損、転倒の恐れがあります。



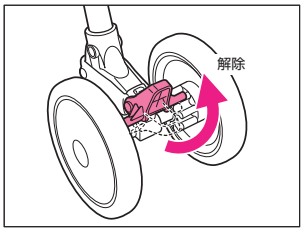
1 左右後車輪のストッパーレバーを押し下げて、ロックする



2 ベビーカーを軽く前後に動かしてストッパーのロックがかかっていることを確認する

ストッパーを解除する

1 左右後車輪のストッパーレバーを押し上げて、ロックを解除する



キャスターの使い方

平坦な道路では、キャスターをフリーにすると車輪の向きが変わり、方向転換がスムーズにできます。

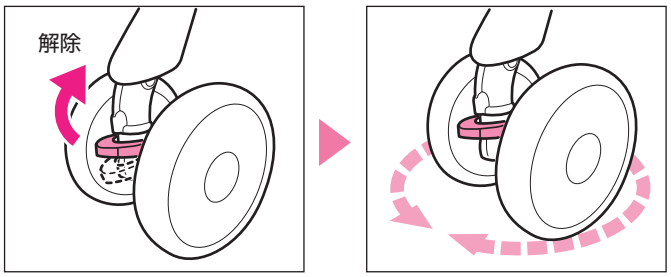
警告

- 対面・背面を切り替える場合は、キャスターのロック位置を間違えて使用すると、押しにくいだけでなく故障の原因となります。以下の説明に従って必ず正しい方向でご使用ください。
- 凸凹道・坂道・傾斜面などの路面で走行するときには、キャスターを左右ともロックしてください。路面の状況によってはタイヤが思わぬ向きになり、ベビーカーが転倒したり、お子様が落下する恐れがあります。

キャスターをフリーにする

平坦な路面で走行する際には、左右ともキャスターのロックを解除し、フリーにしてください。

1 キャスターレバーを押し上げる

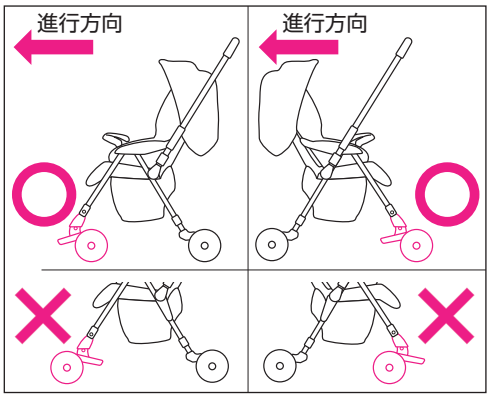


キャスターをロックする

凸凹道・坂道・傾斜面などの路面で走行する際には、左右ともキャスターをロックしてください。
直進性が高まり押しやすくなります。

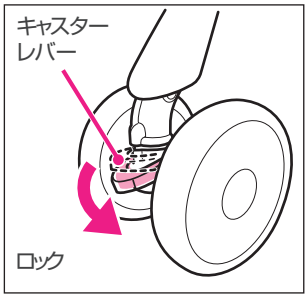
1 キャスターレバーが進行方向を向くように、キャスターの向きを合わせる

- 対面･背面の使用により、ロック位置が異なります。



向きが違うと直進が困難になったり、タイヤの片側のみ異常に摩耗することがあります。

2 キャスターレバーを押し下げてロックする



- キャスターレバーをロックする際は、車輪の向きを左図の進行方向に合わせてからキャスターレバーを押し下げてください。車輪の向きが横や斜め方向を向いている場合はロックできません。

リクライニングの使い方

警告

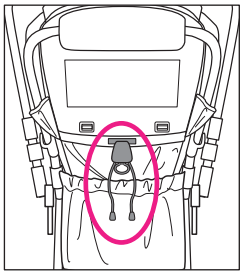
- お子様を座らせたままリクライニング操作をする場合、操作をする前に必ず肩ベルトをゆるめてから操作してください。
- ベビーカーを押しながらリクライニングの操作をしないでください。バランスを崩す恐れがあります。

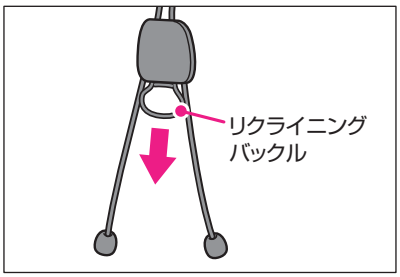
注意

- お子様を座面に座らせたままリクライニングを倒す操作をするときは、リクライニング角度が急に変わらないように、お子様の体重を手で支えながら行ってください。
- １人座りができないお子様の場合はリクライニングを倒して寝かせた状態で使用してください。
- お子様の頭がヘッドレストに当たる場合は、リクライニングを一番倒した状態で使用しないでください。
- 体重が背もたれに掛かった状態で無理にリクライニングを起こさないでください。故障の原因になります。

背もたれを倒すときは

ベビーカー背面

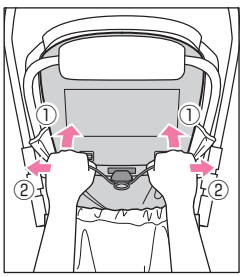




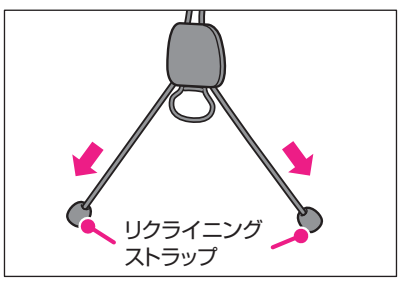
1. お子様を座らせたままのときは、肩ベルトをゆるめる
2. リクライニングバックルの輪に指をかけてゆっくり引く
   - 急にリクライニング角度が変わらないように、もう一方の手でお子様の体重を支えます。
3. ちょうどよい角度で、リクライニングバックルを引くのをとめる

背もたれを起こすときは

ベビーカー背面



握り拳の部分で背面を持ち上げながらリクライニングストラップを引く



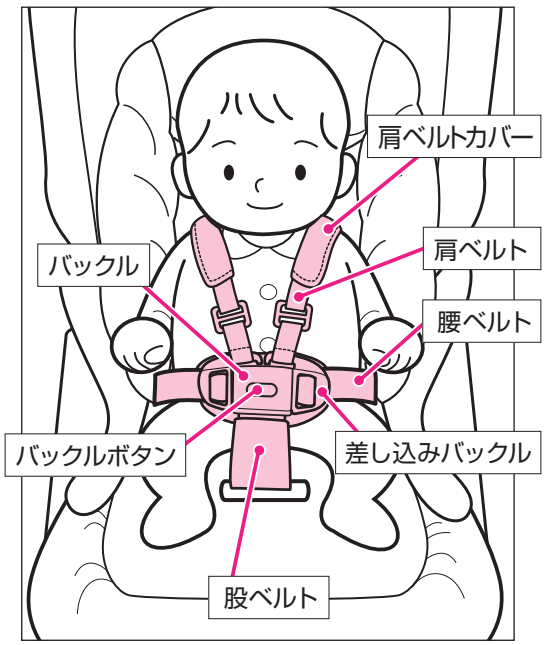
1. 背もたれにお子様の体重がかからない状態にする
   - 体重がかかった状態では起こすことができません。
2. リクライニングストラップを両手で均等に矢印の方向に引く（握り拳の部分で背面を持ち上げながらリクライニングストラップを引く）
3. ちょうどよい位置で、リクライニングストラップを引くのをとめる

シートベルトの使い方

警告

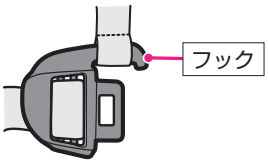
- お子様を乗せたときは必ずシートベルトを締めてください。バックルを差し込まなかったり、シートベルトの締めかたが不完全だったりすると、お子様が落下する恐れがあります。
- 肩ベルトカバーを必ず着用してください。
- 肩ベルトは左右を交差させないでください。お子様の首を圧迫する恐れがあります。
- シートベルトはお子様の体に合わせて調節を行い、締めすぎやねじれ、ゆるみがないように締めてください。
- シートベルトを締めていても、お子様の抜け出しや、立ち上がりには十分に注意してください。個人差がありますので、シートベルトはいかなる場合でも抜け出しや立ち上がりを防止できるものではありません。常に目を離さないようにご注意ください。
- バックルボタンやベルトをお子様が操作しないように注意してください。
- 洗濯などでシートベルトを取り外した場合は、取扱説明書に従って正しく取り付けてください。取り付け方が不完全な場合、使用中にベルトやバックルが抜ける恐れがあります。取り付け後に引っ張って抜けないことを確認してください。

シートベルトを締める

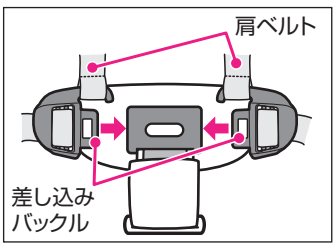


1 お子様の股の間から股ベルトを通す

2 肩ベルトを差込みバックルのフックに取り付ける



3 差し込みバックルをバックルにしっかり差し込む

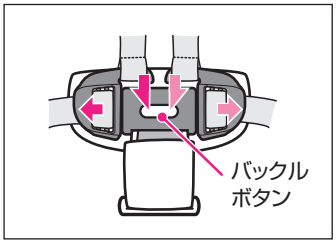


4 腰ベルトの腰側、股ベルトを引っ張って、バックルが外れないことを確認する

シートベルトを外す

1 バックルボタンを押す

- バックルボタンは中央部ではなく、差し込みバックルを外す側を押してください。中央部を押した場合は、左右の差し込みバックルが外れない場合があります。



シートベルト位置と長さの調整の仕方

肩ベルト、腰ベルト、股ベルトを合わせてシートベルトと呼びます。

シートベルトはお子様のベビーカー内での立ち上がりや落下を防止するものです。

ご購入時には、肩ベルトの位置を1カ月頃から後のお子様に適した位置(下段)に取り付けてあります。(お子様の成長は個人差がありますので月齢は目安です。)

このベビーカーは、肩ベルトの位置を下段・上段の2段階に変更できます。お子様の落下事故はお子様の動きが活発になる生後6ヵ月頃から1歳未満の頃に発生しやすく、必ずお子様の成長に合わせて、位置を変更してください。

肩ベルトの位置調整

警告

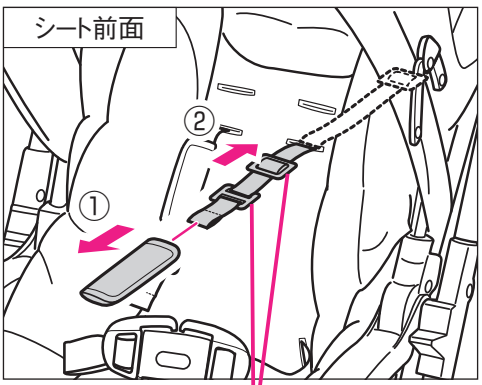
低月齢(1ヵ月～2ヵ月頃)のお子様を乗せる場合は、下段の位置のまま、腰ベルト・股ベルト・肩ベルトをお子様に適した長さに調整してください。

上段と下段、どちらへの変更も同じ方法で行えます。図は、下段→上段の場合です。

1 肩ベルトを取り外す

①肩ベルトから肩ベルトカバーを抜く

②着脱シート裏側へ肩ベルトを通す



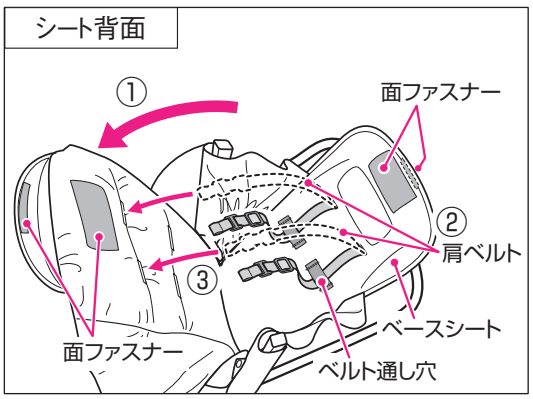
※バックル2コを離れた状態にしておくと、シートの穴を通しやすくなります。

2 肩ベルトを上段の穴に差し替える

①「シートの取り外し」の手順3(P27参照)を行い、着脱シートの背部を取り外す

②肩ベルトをベースシート下側のベルト通し穴から引き抜く

③着脱シート上段の穴からシート前面に肩ベルトを出す



3 着脱シートを取り付ける(P28の手順3参照)

4 肩ベルトカバーを肩ベルトに通す

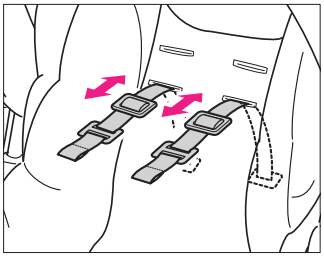
● テープの無い側をお子様側にしてください。

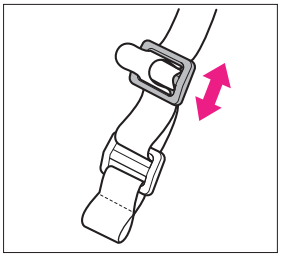
5 肩ベルトを前方に引っ張り、正しく固定されている事を確認する

肩ベルト、腰ベルト、股ベルトを調節する

肩ベルトの調整

バックルの位置を移動して、
長さを調節します。



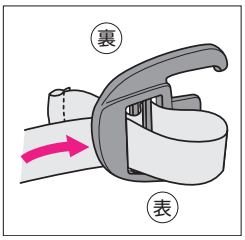


腰ベルトの調整

※ ベルトは、バックルとお子様のお腹の間に大人の指が1本入る程度の隙間で調整します。

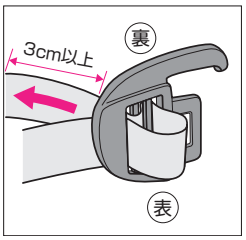
●締める

1 バックル表側にある腰ベルトを矢印の方向へゆるめる



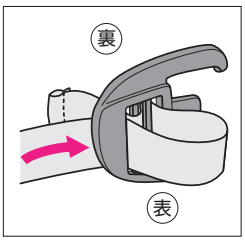
2 バックル裏側にある腰ベルトを矢印の方向に引っ張り、締めすぎないように固定する

- ベルト先端が3cm以上出るようにします。

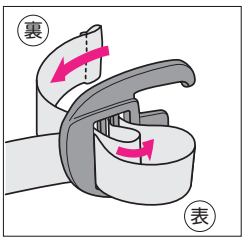


●ゆるめる

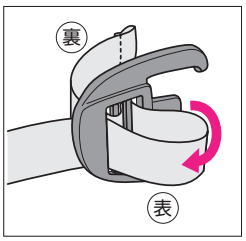
1 バックル表側にある腰ベルトを矢印の方向へゆるめる



2 バックル裏側にある腰ベルトを矢印の方向に押し込み、ゆるめる

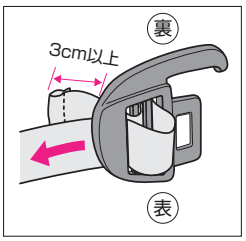


3 表側の腰ベルトを矢印の方向に引っ張り、内側の輪のたるみを無くす

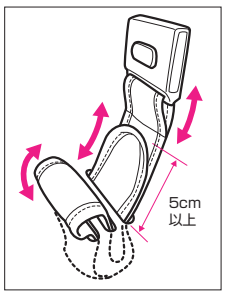


4 表側の腰ベルトを矢印の方向に引っ張る

ベルト先端が3cm以上出るようにします。



股ベルトの調整



1 図のように股ベルトを穴に押し込んでゆるめ、ベルトの先端を出す量を調節する

- ベルト先端が5cm以上出るようにします。

2 調節後、ベルトを引っ張り、抜けないことを確認する

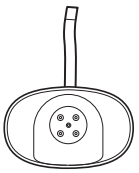
ハグットシートの使い方

ハグットシートは生後7ヵ月頃までの赤ちゃんに特に効果的です。生後7ヵ月以降はお子様の成長に合わせて外してお使いください。
低反発クッションはヘッドピローに取り付けてあります。

ヘッドピローを取り付ける

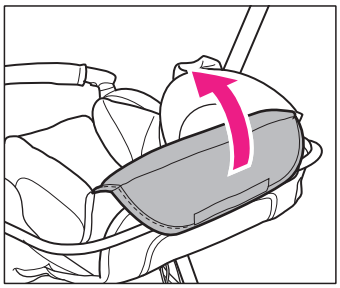
注意

- ヘッドピローはお子様の成長に合わせて、位置を調整してください。
- ヘッドピローの中心の円がお子様の後頭部の中心に合うように取り付けてください。
- 上下および裏表を確認してから取り付けてください。

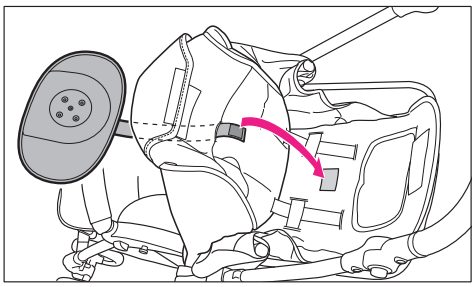


低月例位置　(背面をねかせて使用)

1 着脱シートの上部をめくる



2 ヘッドピローの取り付けベルトを着脱シート背面の穴に通す

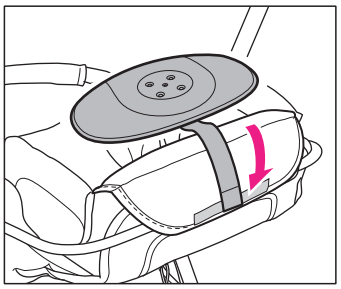


ベルトをベースシートの面ファスナーに留めます。

3 着脱シートを元に戻す

高月例位置　(背面を立てて使用)

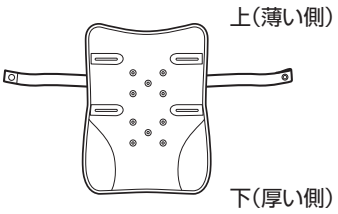
1 着脱シート背部の面ファスナーにヘッドピローの取り付けベルトを留める



背面クッションを取り付ける

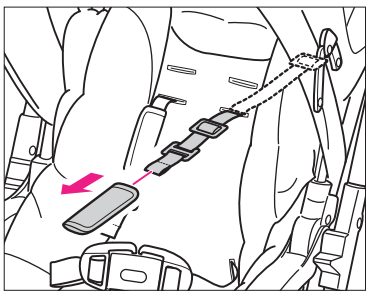
注意

上下を確認してから取り付けてください。



1 リクライニングを倒す

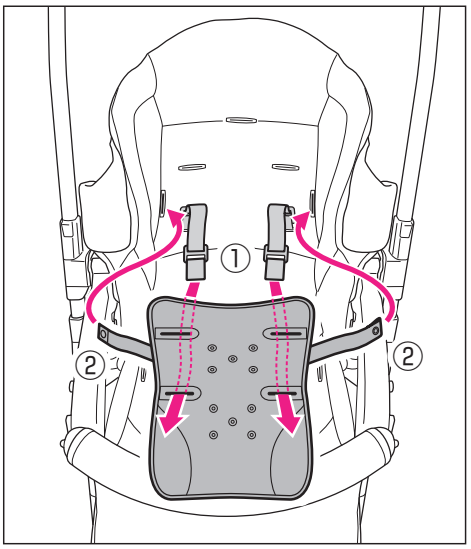
2 肩ベルトカバーを外す



3 背面クッションを取り付ける

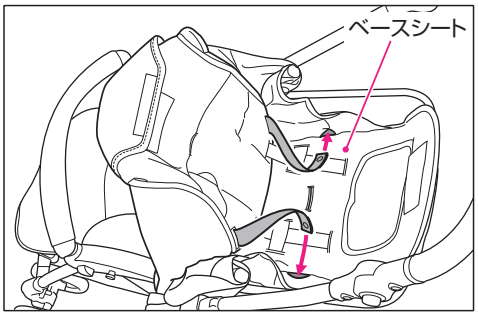
① 背面クッションに肩ベルトを通す

② 着脱シート背面両側の穴から背面クッションのゴムベルトを通す

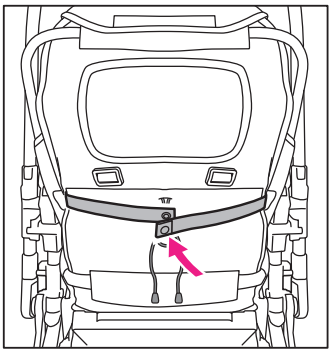


着脱シートの肩ベルトの出口の穴の高さに合わせて、上下どちらかの穴に通してください。

4 ベースシートの穴から、ゴムベルトを裏側に抜く



5 ベースシートの後ろでゴムベルトのホックを留める



6 着脱シートを元に戻す

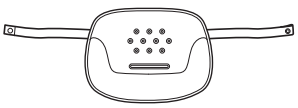
7 肩ベルトカバーを取り付ける

座面クッションを取り付ける

注意

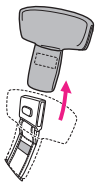
前後を確認してから取り付けてください。

後(薄い側)



前(厚い側)

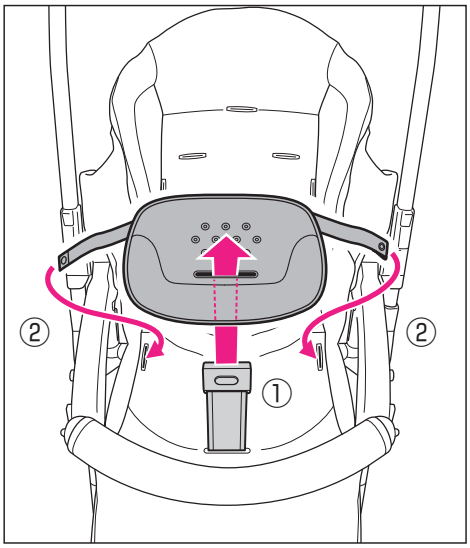
1 股ベルトカバーを取り外す



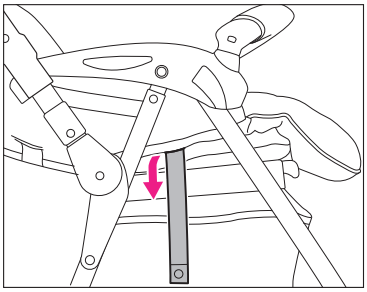
2 座面クッションを取り付ける

① 座面クッションに股ベルトを通す

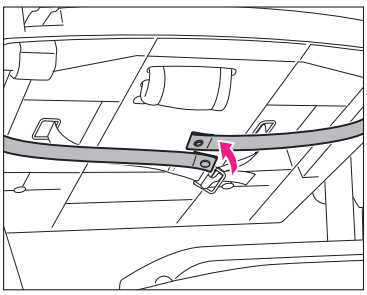
② 着脱シートの座面両側の穴からゴムベルトを通す



3 ゴムベルトを車体の側面から出す



4 座板の裏側でゴムベルトのホックをとめる

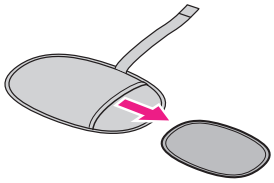


5 股ベルトカバーを取り付ける

ハグットシートの取り外し方

ハグットシートを取り外すときは、取り付けと逆の手順で行ってください。

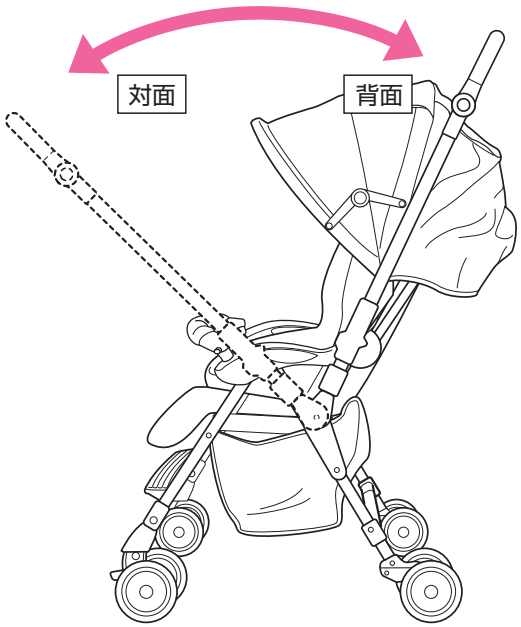
低反発クッションの取り外し方



ヘッドピローを使用する場合は低反発クッションを取り付けてご使用ください。

ハンドル切り替えの使い方

お子様と向き合う形にするときには、ハンドルを対面の位置に切り替えます。

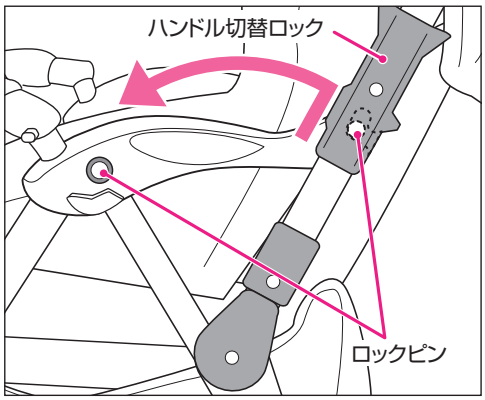


警告

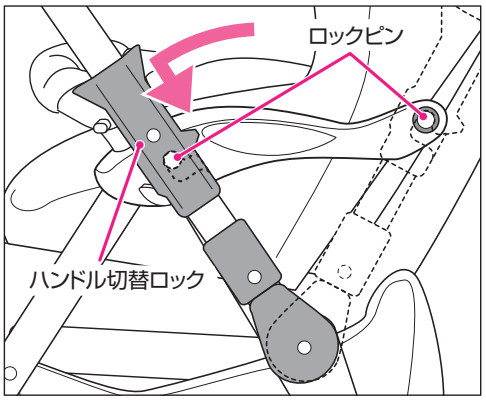
- ベビーカーを押しながらハンドルの切り替えは行わないでください。
- お子様がアームレストの周囲に手を乗せていると、ハンドル切り替え時に手や指をはさむ恐れがあります。必ず手の位置を確認してください。

1 お子様がアームレストの周囲に手を乗せていないことを確認する

2 左右のハンドルロックを両方とも上に引き上げてロックを外す



3 ハンドルを動かし、向きを変えた側の左右のロックピンにハンドルロックを確実にかける



4 ハンドルを前後させても動かないことを確認する

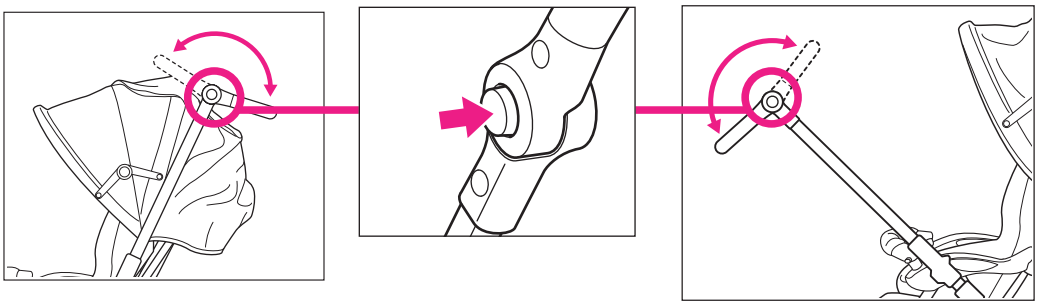
- ハンドルを切り替えると、キャスターのロック位置を変える必要がありますのでご注意ください(P13)。
- キャスターフリーの場合は、自動で進行方向を向きます。

ハンドル角度の変え方

ハンドルの角度を背面・対面ともに変えられます。押しやすい角度に変えてください。

注意

- 角度を変えたあと、確実にロックされていることを確認してください。ロックされていない状態でベビーカーを押すと、ロック部分が衝撃などで破損する恐れがあります。
- ハンドルを背面の位置で使用するときにはハンドル角度を一番前に倒した状態ではご使用にならないでください。後輪に足があたる場合があります。



1. 左右のハンドル角度ロックボタンを押し込んだまま、ハンドルの角度を変更する
2. 角度を決めたら、ハンドル角度ロックボタンを放す
3. ハンドルをゆすり、固定されていることを確認する

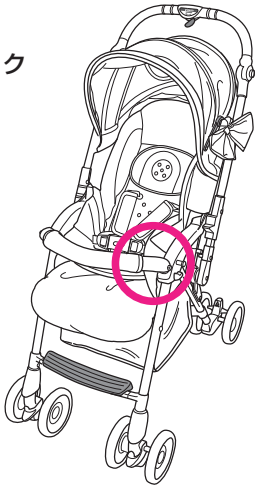
フロントガードの使い方

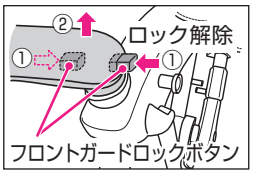
警告

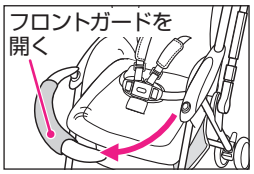
- フロントガードの片側を外した状態でフロントガードを引っ張って使用したり、振り回したりしないでください。破損やケガの恐れがあります。
- フロントガードに過度の力を加えたり、必要以上に曲げたり、過度の衝撃を与えたりしないでください。
- ベビーカーをご使用の際は、必ずフロントガードカバーを取り付けてください。
- お子様を乗せたりおろしたりするときは、必ず事前に平坦な路面でストッパーをロックしてから行ってください。ロックしないと、操作中にベビーカーが動き出したり、転倒することによりお子様が落下したりする恐れがあります。また、第三者に危害を加える恐れがあります。
- お子様の乗せ降ろしはフロントガードの片側を開いて行ってください。手足や服などが引っかかり、ベビーカーが転倒したり、お子様が落下する恐れがあります。
- フロントガードはお子様の立ち上がりやズレ落ち、抜け出しを防ぐものではありません。お子様を乗せる際には必ずシートベルトを締めてください。
- フロントガードロックボタンはお子様に操作させないでください。フロントガードが急に外れることがあります。
- フロントガードを持ってベビーカーを持ち運ばないでください。フロントガードの破損、またはフロントガードが抜け落ちる恐れがあります。

フロントガードを取り外す（左右どちらも外せます。）

1 フロントガードの、
①内側と外側の2つのフロントガードロックボタンを同時に押し込んだまま、
②上に持ち上げて外す。



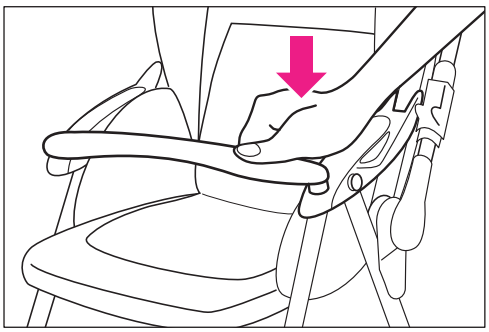




フロントガードを取り付ける

1 フロントガードをアームレストの突起に合わせ、上から押し込む

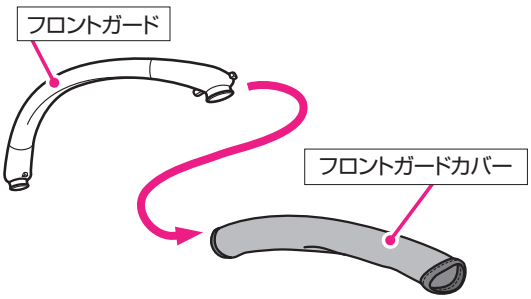
2 フロントガードを軽く引っ張って、ロックが外れないことを確認する



フロントガードカバーを取り外す

1 フロントガードの左右どちらかから、フロントガードカバーを引き抜く

- ベビーカーをご使用の際は、必ずフロントガードカバーを取り付けてください。



**フロントガードカバーは、
取り外して洗濯ができます。**

足のせバーの使い方

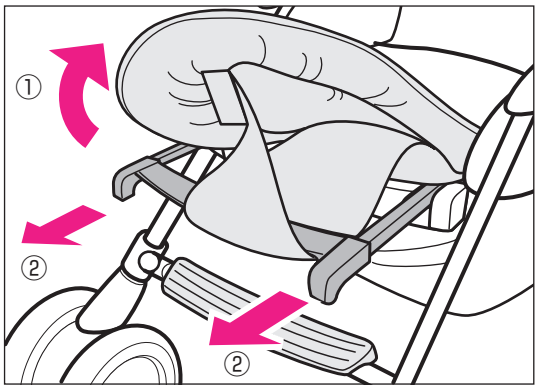
足のせバーを使うと、お子様が寝たときに、足を伸ばす姿勢にできます。

警告

お子様を足のせバーの上に立たせないでください。落下する恐れがあります。

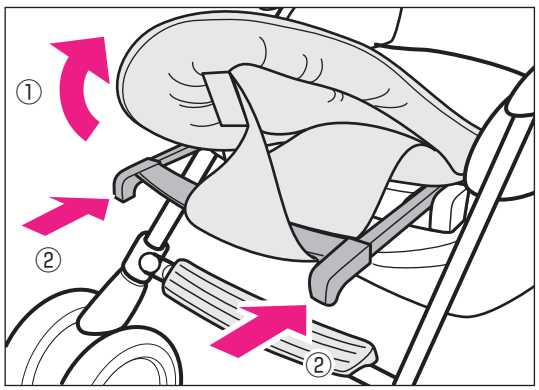
注意

足のせバーに重いものを乗せたり、掛けたりしないでください。故障の原因になります。



1. ①シート前方を持ち上げ、②収納されている足のせバーの両側を持ち、引き出す
2. いっぱいに引き出したら、シートを元に戻す
3. シート裏の布カバーを足のせバー中央部を覆うようにかぶせて面ファスナーに固定する

足のせバーを戻すには

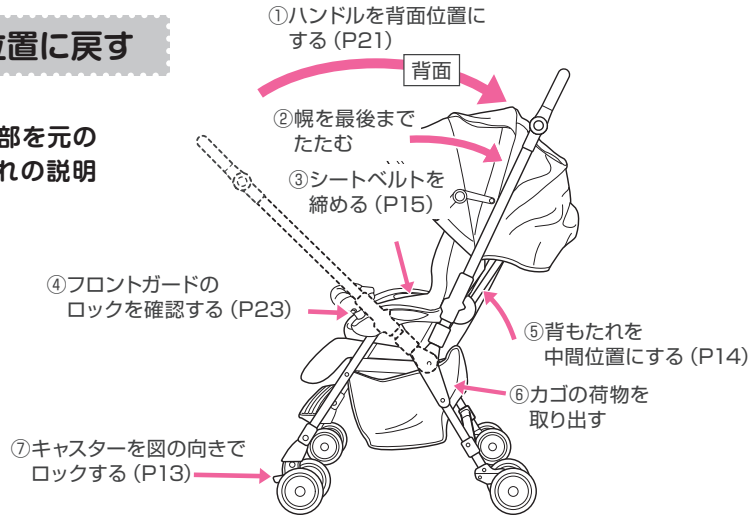


1. ①シート前方を持ち上げ、②足のせバーの両側を持ち、押し込む
2. シートを元に戻す

ベビーカーの折りたたみ方

ハンドルなどを元の位置に戻す

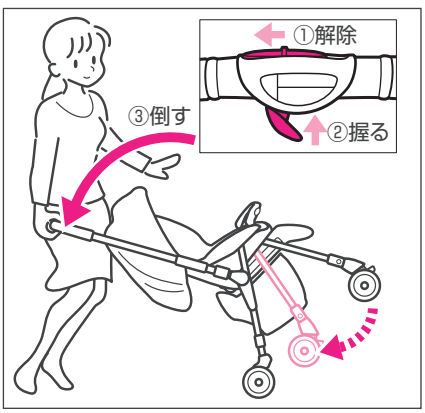
ベビーカーを折りたたむ前に各部を元の位置に戻します（操作はそれぞれの説明ページを参照）。



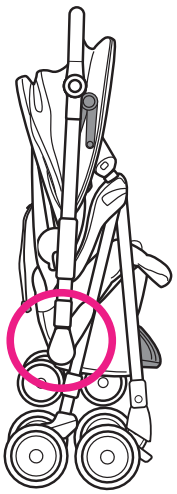
注意

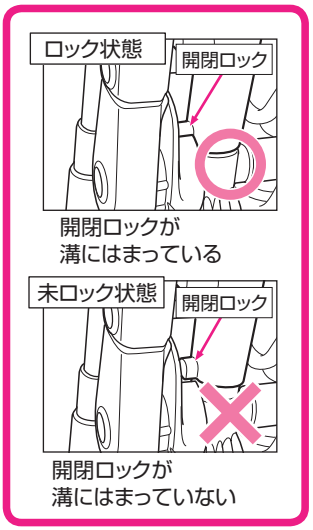
- お子様がそばにいないことを確認ください。
- カゴに荷物が入っていないことを確認ください。
- 折りたたむときに、引っかかりや挟み込みなどを感じたら、折りたたむのをいったん止めて、荷物や玩具、シートベルトなどが引っかかっていないかを確認してください。無理に折りたたむと故障の恐れがあります。

1 ベビーカーの後ろに立ち、
①開閉レバーロックを横にスライドさせて解除し、
②開閉レバーを握り、
③そのまま、後タイヤを支点にして車体を後ろに傾ける（矢印の方向に倒す）



2 開閉レバーから手を離し、左右の開閉ロックが完全にかかっていることを確認する





3 開閉レバーロックを横にスライドさせてロック状態にする

4 コンパクトに折りたたむ場合は、ハンドルを折りたたむ（P22「ハンドル角度の変え方」参照）

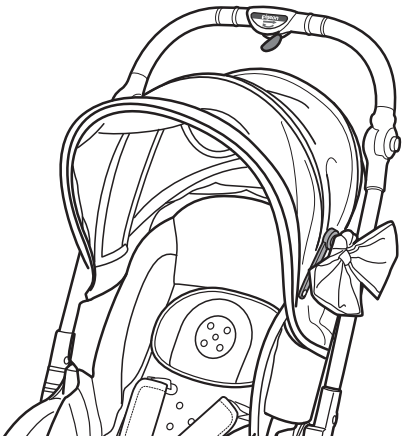
- ハンドルを折りたたむ場合は、幌のステーに当たらない様にしてください。当たったままでは、幌が変形する場合があります。

リボンの使い方

注意

- リボンはベビーカー用のアクセサリーです。ベビーカー以外では使用しないでください。
- お子様におもちゃとして与えないでください。
- ベビーカーの操作時や折りたたみ時に、他の部材とあたる場所には取り付けないでください。リボンが変形する恐れがあります。

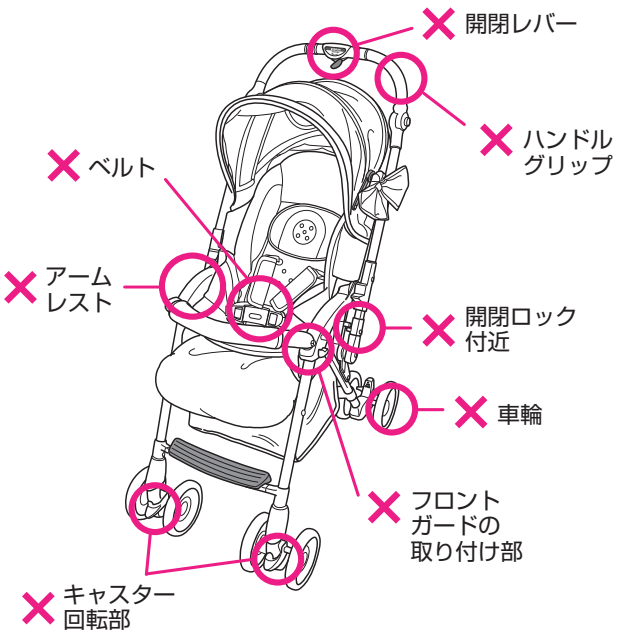
取り付け例



リボン

警告

下記の場所には取り付けないでください。思わぬ事故につながる恐れがあります。



シートの取り外し方、取り付け方

警告

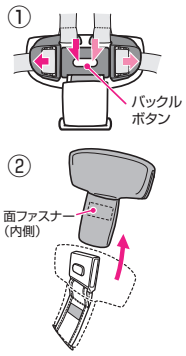
- やぶれ・すり切れ・ほつれなどの発生したシートやベルトはそのまま使用しないでください。縫製品本来の機能を果たせないばかりでなく、お子様に危害がおよぶ可能性があります。
- シートの取り付けは本書の指示に従い、確実に行ってください。取り付けが不完全な場合、お子様が落下したりシートやベルトが損傷する恐れがあります。
- シートを外したままお子様を乗せないでください。手足を挟んだりケガをする恐れがあります。

取り外す

1 幌を取り外す(P11)

2 ①バックルボタンを押して、差し込みバックルを外し、肩ベルトも外す

②股ベルトカバー内側の面ファスナーを外し、股ベルトカバーを取り外す



3 リクライニングを倒してから、シート上部をベースシートから外す

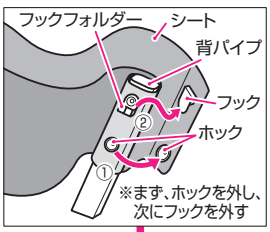
①背パイプ上部左右のホックを外す

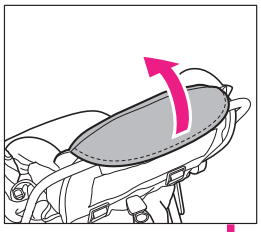
②シートを上に持ち上げ、フックホルダーからフックを抜く

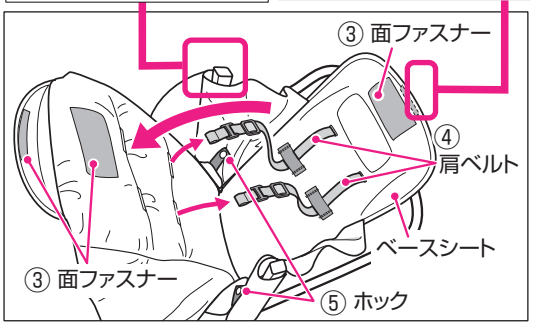
③ベースシートに留めてある面ファスナーを外し、シートをめくる

④肩ベルトをシートから抜く

⑤ベースシートに留めてある左右のホックを外す



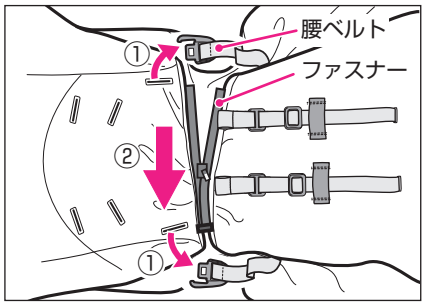




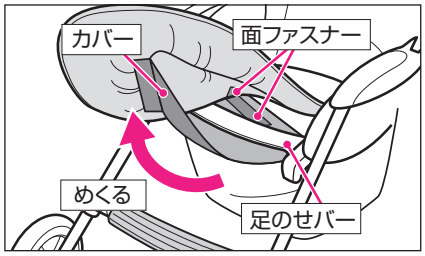
4 シート下部をベースシートから外す

①左右の腰ベルト・差し込みバックルをシートから引き抜く

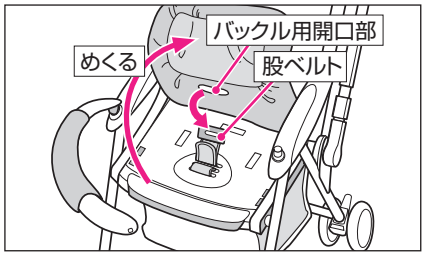
②ファスナーを開いて外す



5 シート前面をめくり、足のせバーを覆っているカバーの面ファスナーを外す

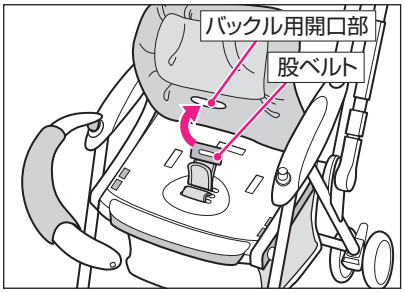


6 シート前面をめくり、股ベルト・バックルをシートから引き抜く



取り付ける

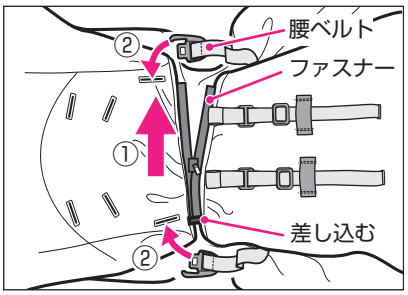
1 シートの裏表を確かめ、股ベルト・バックルをバックル用開口部に通す



2 シート下部をベースシートに取り付ける

①シート裏面のファスナーをベースシートのファスナーにセットしてしめる

②腰ベルト・差し込みバックルをシート左右の開口部に通す



3 シート上部をベースシートに取り付ける

①ベースシートの左右２カ所にシートのホックを留める

②背パイプ上部にシートを巻くように、背パイプの内側に回し、フックホルダーにフックを上から差し込む

③フックの下にあるホックを留める

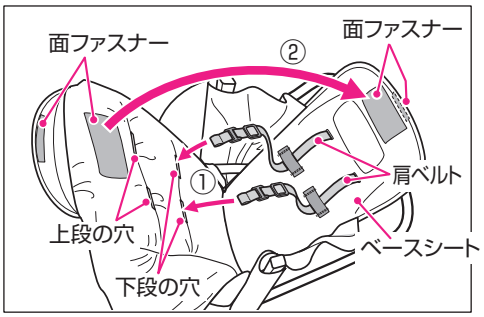
④もう一方も、同様に②③を行う

4 シート上部をベースシートにかぶせる

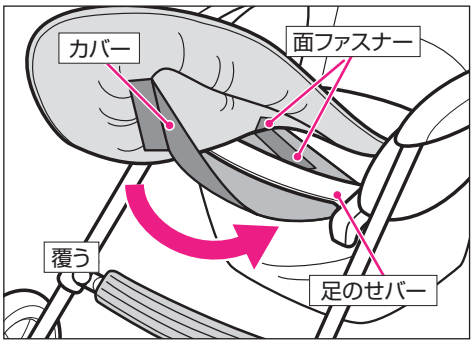
①肩ベルトを２本ともシートの穴に通す

②シートをベースシートにかぶせ、面ファスナーの位置を合わせて取り付ける

● 肩ベルトはお子様の肩の高さに合わせて左右同じ高さの穴に通してください。



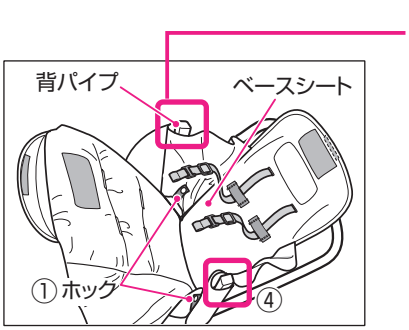
5 シート前面をめくり、足のせバーをカバーで覆い、面ファスナーで留める

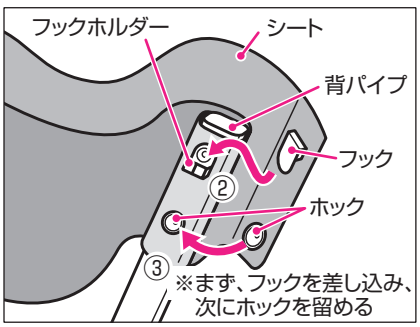


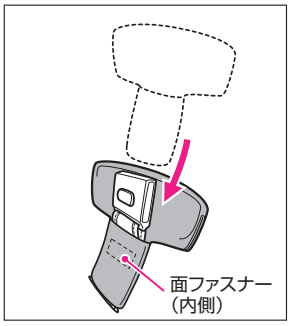
6 肩ベルトカバーを肩ベルトに通す

7 股ベルトカバーを股ベルトに通し、股ベルトカバー内側の面ファスナーを留める（下図参照）

8 取り付け後、シートを軽く手で動かし、フック・ホック・ベルトが外れていないか確認する







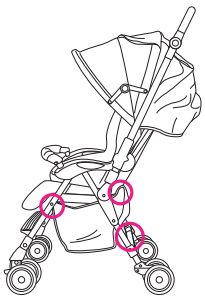
カゴの使い方、取り外し方、取り付け方

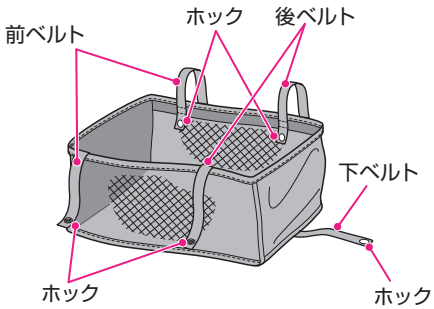
警告

●5kg以上の荷物は乗せないでください。カゴが破損する恐れがあります。また、ベビーカーがバランスを崩して転倒し、お子様が落下する恐れがあります。

注意

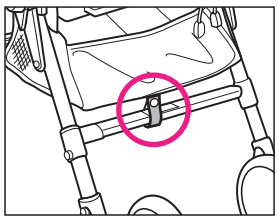
●カゴは洗濯機での洗濯はできません。お手入れの方法はP35を参照してください。
●割れ物、ビン類は入れないでください。走行中の衝撃などで破損する恐れがあります。
●角のとがったものやカゴからはみ出すものは入れないでください。カゴの変形、破れの原因になります。
●カゴの底に均等に荷重が加わるように荷物を載せてください。



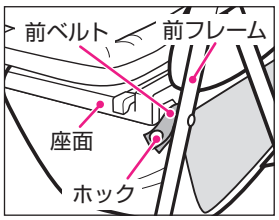


取り外す

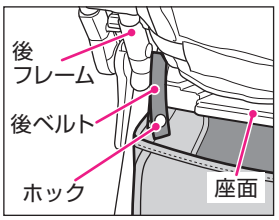
1 後輪上方の後ステーから下ベルトのホックを外す



2 座面と前フレームとの間の前ベルト（左右）のホックを外す

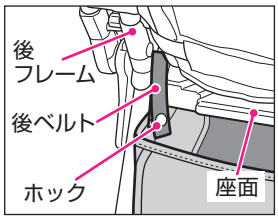


3 座面と後フレームとの間の後ベルト（左右）のホックを外す

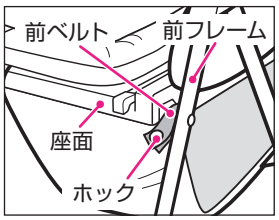


取り付ける

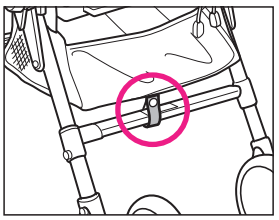
1 後ベルト（左右）を、座面と後フレームとの間にまわしてホックを固定する



2 前ベルト（左右）を、座面と前フレームとの間にまわしてホックを固定する



3 下ベルトを後輪上方のフレームにまわしてホックで固定する



股ベルトの取り外し方、取り付け方

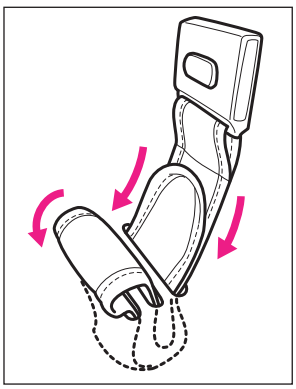
警告

シートベルトの取り付け・調節は下記の手順に従って行ってください。誤った取り付けを行うと、ベルトやバックルが抜け、お子様が落下する恐れがあります。

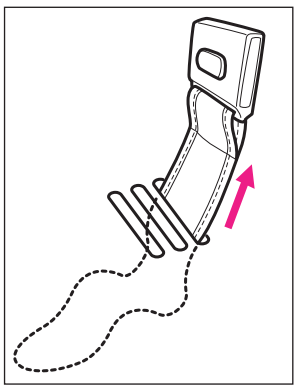
取り外す

ここでは、すでにシートが取り外されているものとして説明します。

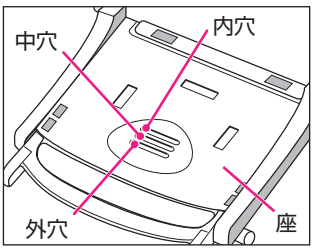
1 股ベルト・バックルをベルト先端と一緒に穴に押し込んで、ベルトをゆるめる

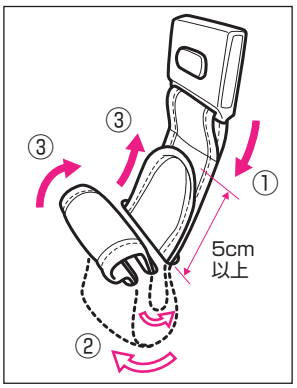


2 ベルト先端を、3つの穴から順次引き抜き、最後に股ベルト全体を穴から抜く



取り付ける





①股ベルトを座の内穴から下側へ通す

②股ベルトを外穴から上側へ通す

- 股ベルトの長さはこの状態で調節します。

③上側にきたベルトを中穴から下側へ通し、さらに内穴から上側に通す

- このとき、ベルト先端は5cm以上出るようにしてください。
- 取り付け後、ベルトを引き、抜けないことを確認してください。

座クッションの取り外し方、取り付け方

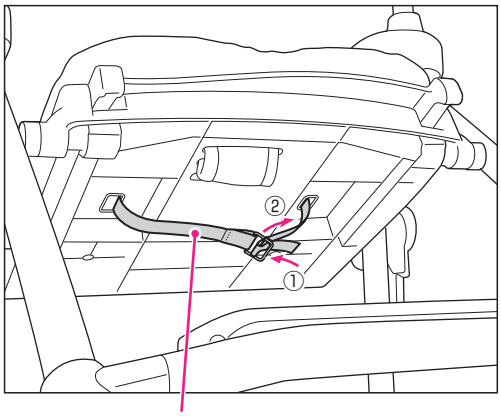
警告

座クッションは厚い方を前方にして取り付けてください。

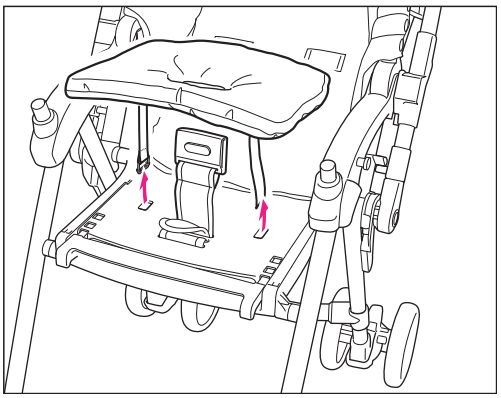
取り外す

座クッションの取り外しは、着脱シート（P27参照）およびフロントガード（P23参照）を取り外した状態で行います。股ベルトを取り外す必要はありません。

1 座面裏側のバックルをゆるめ、固定ベルトを外す

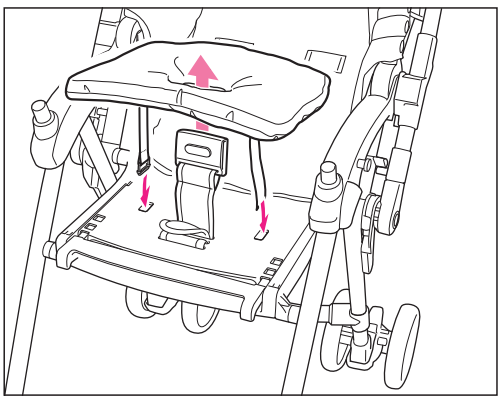


2 座クッションの固定ベルトを座板から引き抜く

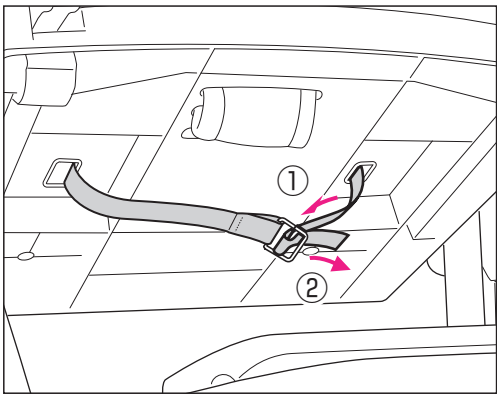


取り付ける

1 座板の上面から座板の取り付け穴に固定ベルトを通す



2 座面裏側で左右の固定ベルトをバックルに通して固定する

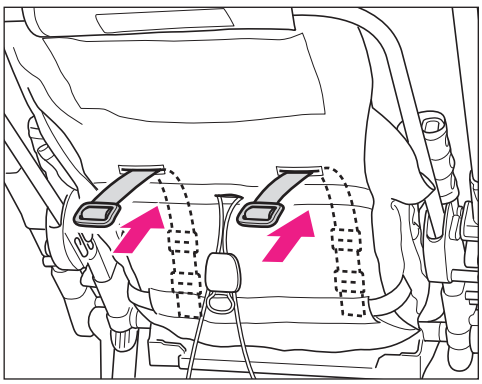


肩ベルト・腰ベルトの取り外し方、取り付け方

肩ベルトを取り外す

1 P16の手順1、手順2を行い、着脱シートの背部を取り外す

2 ベースシートの背面側より肩ベルトを押し込んで、表側に抜く



肩ベルトを取り付ける

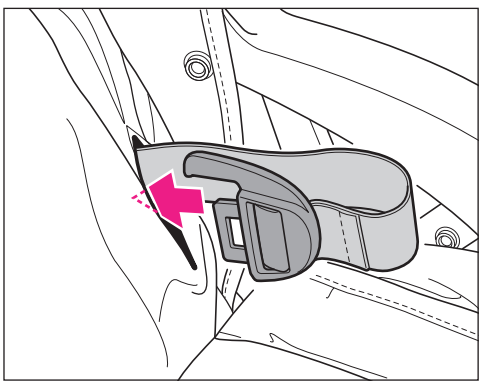
1 左記の手順2とは逆に、ベースシートの表面側から肩ベルトを通す（肩ベルトの向きに注意してください）

2 P16の手順2、手順1の順に、着脱シートの背部を取り付け、ベースシートの左右の穴から腰ベルトを抜く

腰ベルトを取り外す

1 P27の手順1～4を行う

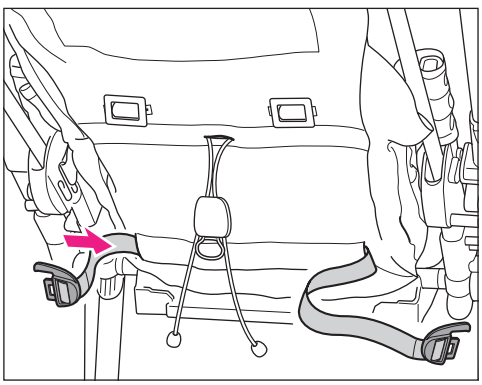
2 着脱シートから腰ベルトを引き抜く



● 差し込みバックルを腰ベルトから取り外さない場合は、差し込みバックルの先端側から穴に押し込みます。

3 ベースシートの左右の穴から腰ベルトを抜く

ベースシート裏面の袋状の穴を通して、反対側に引き抜く



保管のしかた

注意

- ●火の近くや高温になる場所、日光が常に当たりつづける場所、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所での放置・保管は行わないでください。故障・変形・カビ発生の原因となります。特に夏季車中での保管にご注意ください。
- ●ベビーカーの上に荷物を重ねたり、圧力が加わる状態で保管したりしないでください。故障・変形の原因となります。
- ●雨や水のかかる所に放置しないでください。シートの損傷やサビ、カビの発生の原因となります。
- ●ベビーカーの保管は直射日光を避け、湿気が少なく雨やほこりがかからない場所をお選びください。やむなく屋外で保管する場合はカバーをお掛けください。
- ●車のトランクなど横に置く場合は、背面を下にしてください。また、幌が壁面に当たらないようにしてください。変形の恐れがあります。
- ●ハンドルを折りたたんで収納する場合は、ハンドルと幌のステーが当たらないようにしてください。幌が変形する恐れがあります。

日常点検について

●結合部分のゆるみ、部品の欠損および動作不良などの異常がないか適時点検してください。

警告

- ●危険ですから、むやみに改造や分解はしないでください。
- ●お手入れの際に取り外した部品は、本書をよくお読みいただき、正しく取り付けてください。また､取り外したまま放置しないでください。小さな部品は､お子様が誤飲する危険があります。

ご使用中にベビーカーが破損したり、次のような状態になった場合には、ただちに使用を中止してください。

- ●タイヤが磨耗により残りが5mm程度の厚さまで減ったとき。
  （車輪は消耗品ですので交換が必要です。交換は修理センターで有償で行います。）
- ●ネジ・リベットや車輪のゆるみ、シートベルトの破れ・切れ・ほつれが生じたとき。
- ●あきらかに操作性に異常を感じた時や、走行に障害を感じたとき。
- ●車体が変形したり、パイプの曲がりや損傷が生じたとき。
- ●フロントガードや幌など、取り外し可能な付属部品を紛失したとき。
- ●プラスチック部品や金属部品のひび割れや変形・破損が生じたとき。

注油

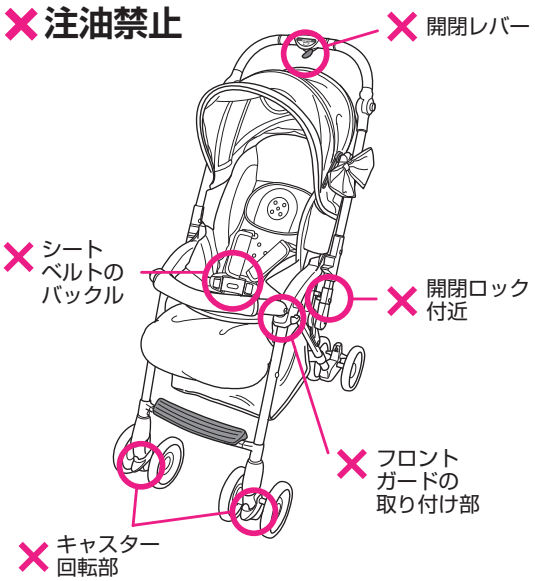
きしみなどの異音が発生したり、動作が滑らかでなくなったりした場合は、市販の潤滑油（シリコーン系）を少量（1カ所2～3滴）注油してください。注油量が多すぎると、ホコリが付着して逆に機能を低下させる恐れがあります。

警告

シートベルトのバックル、フロントガードの取り付け部、開閉レバー、開閉ロック付近、キャスター回転部には注油しないでください。動作不良を起こす恐れや、バックルやフロントガードが不意に外れてお子様が落下する恐れがあります。

注意

お子様が触れたりなめたりする恐れのある縫製品やフロントガード、アームレストには油がつかないように注意してください。万一ついてしまった場合は、油をしっかり拭き取ってから使用してください。



清掃

車体の清掃について

使用前にタイヤやフレームについた、泥、ホコリなどはよく絞った濡れタオルなどを使ってきれいに拭き取ってください。
汚れがひどい時は、薄めた中性洗剤を含んだ布で拭いてください。中性洗剤が残らないよう、よく絞った濡れタオルなどを使ってきれいに拭き取ってください。

注意

- 定期的に清掃を行ってください。車体に泥やホコリなどがついたままで使用しないでください。
- 車体の清掃には中性洗剤以外は使用しないでください。部品の変質、劣化、退色の原因になります。

縫製品の洗濯

快適にご使用いただくために、汚れたら洗濯してください。

注意

- ●製品の特性上、ご使用方法によっては若干色落ち・色あせすることがあります。
- ●一般の洗濯用洗剤が使用できますが、蛍光漂白剤入りの洗剤の使用は避けてください。
  事前に洗剤の注意書きもお読みください。
- ●保管の状態により、着脱シートにカビが発生することがあります。
  こまめに洗濯をして清潔に保つよう心がけてください。

●着脱シート、フロントガードカバー、肩ベルトカバー、股ベルトカバーの洗濯

丸洗いができますが、洗濯機は使わず、下記の方法に従って洗濯してください。

洗濯機は使用できません。液温を30℃以下にしてやさしく手洗いしてください。

アイロンをかけないでください。

絞らないでください。洗濯後は十分にすすぎ、かるく脱水します。

漂白剤や漂白剤入りの洗剤は使用しないでください。

ドライクリーニングをしないでください。

乾燥機は使用しないでください。洗濯したものを干す時は、形を整えて日陰に平干ししてください。

●幌、カゴ、シートベルト(股/腰/肩)、座クッション、ハグットシート、低反発クッション、リボンの洗浄

注意

部品の取り外しを行う際は、シート取り付け部、ガード差込口、幌の差込口などで怪我をしないように注意してください。

丸洗いはできません。以下の方法で洗浄してください。

- ・液中にはつけず、液温30℃以下の洗剤をつけたブラシやスポンジなどを使用して、汚れを拭き取ってください。
- ・洗剤を使用して汚れをとったあとは、水を含ませた布やスポンジで洗剤成分が残らないように数回拭き取ってください。
- ・乾かすときは、乾いた布で水分を拭き取り、陰干ししてください。

●ベースシート(P27参照)の洗浄

注意

ベースシートは洗濯できません。布などで汚れを拭き取るだけにしてください。濡らしてしまった場合は十分に乾燥させ、中の水分を取り除いてください。

洗濯ができませんので、よく絞った布などで汚れを拭き取るだけにしてください。

廃棄方法について

お住まいの各自治体の廃棄方法に従って処分してください。
（環境保護のため、適正な廃棄をせずに放置することはおやめください。）

アフターサービス

以下の場合には、ただちにご使用を中止し、製品名、シリアル番号（後ステー上側のシールに記載）をご確認の上、お買い上げの販売店または、当社修理センターまでご連絡ください。
そのまま使用しますと、重大な事故につながる恐れがあります。
・ご使用中に故障などが発生した場合
・点検中に破損などを発見した場合
・部品の交換、修理の必要が生じた場合
・その他異常を感じた場合
保証期間中（お買い上げ日より1年間）に、部品の欠品、加工不良など当社の責任によるもの、取扱説明書や注意書きにしたがった正常な使用状態で故障した場合には、保証規定に基づき無償修理いたします。
保証期間を終了した場合の修理、部品販売については有償にて承ります。
ご購入日より１年以上経過した製品の修理においては製品修理箇所以外の品質保証はいたしかねます。修理箇所の保証期間は３ヵ月です。
製品のご購入後３年間は修理を申し受けますが、修理必要部品の在庫がなくなった場合には、修理ができないことがあります。部品の保有期間は、製造中止後３年間です。ただし、３年以内であっても、部品の色・柄などについては、ご希望に添えない場合があります。

○ ご使用開始後、５年間を経過した製品については、ご使用を中止してください。

SGマーク被害者救済制度

SGマーク被害者救済制度は、SGマーク付き製品の欠陥により発生した人身事故に対する賠償制度です。
ただし、お買い上げ日より4年以内に限ります。

●賠償についてのご注意

認定したベビーカーそのものが故障したとしても、その品質について保証するというものではありません。傷害などの身体的な損害について賠償する制度です。

●製品の欠陥により事故が起きた場合には

製品の欠陥により事故が起きた場合には、下記の［事故の届出に必要な項目］を、事故が発生した日から60日以内に、協会または協会が指定する所に届けてください。

製品安全協会
〒110-0012 東京都台東区竜泉2-20-2 ミサワホームズ三ノ輪 2F
TEL 03(5808)3300

［事故の届出に必要な項目］

① 事故の原因となったベビーカーの現品
　イ）製品の名称
　ロ）製品の購入先、購入年月日

② 事故発生の状況
　イ）事故発生年月日
　ロ）事故発生場所
　ハ）事故発生状況

③ 被害の状況
　イ）被害者の氏名、年齢、性別、職業、住所
　ロ）被害の状況と程度

保証について

保証は日本国内においてのみ有効です。

ご使用中に、万一、故障が発生した場合には、現品に保証書を添えて、お買い上げの販売店またはピジョン(株)修理センター(裏表紙参照)へ修理をご依頼ください。

保　証　書

保証規定

1．有効保証期間は「お買い上げ後１年間」です。
2．製造中止後の製品は部品在庫がなくなった場合、修理できないことがあります。
3．一度ご使用になった製品は、原則としてお取替えすることはできません。
4．保証期間内に取扱説明書に基づく正常な使用方法において、万一故障した場合には無償修理を行います。お客様の誤使用などによる故障においては有償修理となります。
5．保証期間内であっても下記の項目に該当するものは有償修理となります。
   A．プラスチック部品の自然劣化による変退色。
   B．アルミフレームの自然劣化(塗装、メッキはがれ)。
   C．お客様の誤使用・保管不備・手入れ不足・改造や不当な修理による故障。
   D．可動部・タイヤの自然消耗。
   E．縫製品のやぶれ・すり切れ・ほつれなど。
   F．火災・地震・水害・落雷などの天災地変などの不可抗力、事故などによる故障。
   G．故障の原因が本製品以外に起因する場合。
   H．業務用などに使用して故障した場合。
   I．保証書の必要記入項目に不備がある場合、字句を書き換えられた場合。
   J．本保証書のご提示がない場合。
6．有償修理時に要する発送費、諸経費はお客様のご負担となります。
7．保証書は再発行いたしません。(大切に保管してください)
8．本保証書は日本国内においてのみ有効です。海外からの修理サービスは致しかねます。

※この保証書は明示した期間、条件の下において無償修理をお約束するものです。従いまして、この保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。

お買い上げ後、ただちに下の欄に必要項目を記入してください。保証は日本国内においてのみ有効です。

品名／カラー	ピジョン マハロ
シリアル No.	(後ステー上側に貼付のシールに記載)
保証期間	お買い上げ日より 1 年間　お買い上げ日　　年　　月　　日
お客様	お名前
	ご住所　〒
	電話　　(　　)
販売店	店名
	住所　〒
	電話　　(　　)

※お買い上げ時のレシート添付でも有効です。

MEMO

［お願い］
製品は品質向上のため、予告なく仕様変更する場合があります。ご了承ください。

●製品の各種お問い合わせ先

〒103-8480 東京都中央区日本橋久松町4-4
ピジョン株式会社 お客様相談室
TEL 03（5645）1235
受付時間 9時～17時（土・日・祝日を除く）

●製品の修理、部品の購入などに関するお問い合わせ

〒300-0315 茨城県稲敷郡阿見町大字香澄の里36-3 筑波南第一工業団地
ピジョン株式会社 修理センター
TEL 029（889）5707
受付時間 9時～12時、13時～16時30分（土・日・祝日を除く）

13.02(1)